

がうまくいけば、いずれ金額となって跳ね返ってくる」という自信があり、必要な投資として認識しているという。卸売市場から各店舗へ配達する時もこの箱を使ってもらえば、消費者に限りなく近いところまで「米崎産」を認知してもらえるのではという狙いもある。

「三陸の漁師たちはこだわりと自信を持って高品質な食材を作っている。ブランドとしての下地は十分なので、最後のアウトプツ

ト(打ち出し)が弱くもある」と学さん。「被災したけど岩手の漁師はすごい」と言われたいですね」といって、三陸全体として盛り上がりつつある。いつまでも「被災」って臨んでいる。

穏やかに茶会楽しむ

こそだて シップ 大船渡でひな祭り

気仙岡市で活動を展開するNPO法人こそだてシップ(伊藤悦子理事長)が運営するマッサロンのひな祭りイベントは3日大船渡

「被災したけど岩手の漁師はすごい」と言われたいですね」といって、三陸全体として盛り上がりつつある。いつまでも「被災」って臨んでいる。

ったあと、穏やかにお茶会を楽しんだ。

ひな祭りイベントは、「子育てで忙しい母親に少しでもゆとりとした時間を」との思いで毎年この時期に開催。伊藤理事長と縁のある茶道関係者の協力を得て、昨年からはお茶会も実施している。

この日は午前中、親子でスキんシップをテーマに曲に合わせて子どもにマッサージを施す「童歌ベビーマッサージ」と、産後の体を整える「ママリフレッシュダンス」を行った。

午後から開かれたお茶会では、参加した母親たちが入れ代わり立ち代わり茶席に入り、おいしいお茶と茶菓子を満喫。

一緒に茶席に着いた子どもの中には、茶器に興味を示す子も。その様子を大人たちが温かく見守るなど、会場は終始和やかな雰囲気

に包まれていた。長男の聖人君(9カ月)と一緒に参加した川村恵子さん(35)は、「住田町上有住」は、「すごく楽しかった。いろいろなママに出会えてお話を聞くことができたり、お茶もおいしくて良かったです」と笑顔を見せていた。

穏やかな雰囲気の中、お茶会を楽しむ参加者たち。カメラアホール

